第14講　江戸時代Ⅲ

1　武断政治から文治政治へ

①時代の転換

A　**幕政確立期（初代家康～３代家光）**

武断政治⇒圧倒的な武力により他勢力を威圧。

☆度重なる改易により**牢人〔浪人〕**が増加（約40万人）。**かぶき者**〔旗本奴・町奴〕も横行し，治安が悪化した。

B　転換の契機

1651年　由井正雪の乱〔慶安の変〕

☆**３代家光が没し**若年の家綱が４代将軍に就任することを契機に，牢人の**由井〔由比〕正雪**・丸橋忠弥らが幕府転覆を企てるが失敗。

1652年　承応の変

☆牢人の戸次〔別木〕庄左衛門らが老中襲撃を企てるが失敗。

C　**幕政安定期（４代家綱～７代家継）**

文治政治⇒朱子学にもとづく徳治主義により，人々を教化。

☆文教興隆，法律・制度・儀礼の整備。番方（武官）優位から役方（文官）優位へと転換。

---

②４代家綱の治世

叔父の**保科正之（会津藩主）**や前代からの老中松平信綱らが補佐。晩年は**大老酒井忠清〔下馬将軍〕**が専権を振るう。

A　**末期養子の禁緩和**（1651年）

50歳未満17歳以上の大名・旗本に末期養子を許可し，**大名の改易を緩和**。

B　**明暦の大火〔振袖火事〕（1657年）**

江戸城天守閣を含む江戸市街の55％を焼き，死者は10万人以上となる。

☆大火後，広小路とよばれる火除地が設けられ，従来の**大名火消**に加えて旗本による**定火消**を設置した。

C　**武家諸法度寛文令**（1663年）

キリスト教禁止を初めて明文化。

D　**寛文の二大美事**

殉死の禁止・大名証人制〔人質制〕の廃止。

☆殉死の禁止により，下剋上思想が消滅した。

E　寛文の朱印改め〔寛文印知〕(1664年)

全国の大名から領知宛行状を回収し再発行，将軍権威を再確認させた。

F　諸宗寺院法度・諸社禰宜神主法度(1665年)

仏教各宗派共通の法度と，神社・神職の統制令を発布。

G　分地制限令(1673年)

本百姓体制維持のため，名主20石・一般百姓10石未満の者の分地を禁止。

H　幕領の総検地〔寛文・延宝検地〕

関東・畿内近国で実施し，幕府の財政収入の安定をはかった。

---

③“名君”による藩政の刷新

A　**池田光政(岡山藩〔外様〕)**

陽明学者**熊沢蕃山〔了介〕**を招き家老に登用。**わが国初の郷学閑谷学校**を設立して藩士・庶民の教育にあたった。

☆熊沢蕃山は私塾花畠教場を設けた。

B　**保科正之(会津藩〔親藩〕)**

３代将軍家光の異母弟。甥の４代家綱を補佐して幕政を主導した。南学の朱子学者**山崎闇斎**に学び，多くの書を著した。

☆藩学稽古堂(のちの日新館)を設立。

C　**徳川光圀(水戸藩〔御三家〕)**

明から亡命した**朱舜水**を招き，江戸藩邸内の**彰考館**において歴史書『**大日本史**』の編纂を開始。前期**水戸学**の基礎を築いた。

D　**前田綱紀(加賀藩〔外様〕)**

京学の朱子学者**木下順庵**・本草学者**稲生若水**らを招き，学問を振興。独自の農政改革である改作法を実施し，藩政・民政を整備。

２　５代綱吉の治世⇒もと上野国館林藩主，1680年～1709年

①展開

A　**将軍権力の強化**（綱吉の初期治世＝**天和の治**）

あ　**大老**に**堀田正俊**を登用（1681年）

専横が目に余る大老酒井忠清〔下馬将軍〕を罷免，緊縮政治を実行。

☆賞罰厳明，大名・旗本の改易・減封，不良代官の罷免など。

☆勝手掛老中および勘定吟味役を創設し，財政を重視。

い　**武家諸法度天和令**（1683年）

旗本・御家人も含めた武家の統制法として，諸士法度を統合。**８代吉宗以後はこれを踏襲することとなった。**

☆「**文武忠孝**を励し，**礼儀**を正すべきこと」

B　**将軍の独裁**（**側用人政治**の開始＝**元禄時代**）

1684年，若年寄稲葉正休による大老堀田正俊殺害後は**側用人柳沢吉保**を登用。これが将軍の独断を助長し，以後政治は激しく混乱した。

---

②政策

A　**学問の重視**⇒京学の朱子学者**木下順庵**を侍講とする

1684年　**安井算哲〔渋川春海〕**が**貞享暦**を作成，幕府の**天文方**となる。

☆元の授時暦をもとに，従来の唐の宣明暦にかわるものとして作成。

1689年　**北村季吟**が幕府の**歌学方**となる

1690年　**湯島聖堂・聖堂学問所**の創設

☆林羅山〔道春〕が上野忍ヶ岡に設けた孔子廟および**私塾弘文館**を，湯島に移転。

☆**林鳳岡〔信篤〕**を**大学頭**に任命し，儒教と**朱子学を優遇**。以後聖堂学問所は**林家**に代々主宰させる。

B　**寺社の造営・修築**⇒生母桂昌院の影響で仏教に帰依

護国寺・護持院を建立し亮賢・隆光を重用。上野の寛永寺・芝の増上寺も修築，東大寺大仏殿も再建するなど**莫大な費用を投入**。

C　殺生・死・血などを忌み嫌う風潮の高まり

1684年　**服忌令**⇒神道の影響

☆近親の死に際し，喪に服したり忌引をする日数を定めたもの。

☆８代将軍吉宗政権で改正され，江戸時代を通して社会に浸透していった。

1685年　生類憐みの令（～1709年）

☆仏教の放生思想にもとづき繰り返し出された極端な動物愛護令。生類すべての殺生を禁じたが，とくに犬に対する施策が大きな問題となり，綱吉は「**犬公方**」とよばれすこぶる不評であった。

☆武力で相手を殺傷し上昇をはかる戦国時代以来の価値観は，かぶき者ともども完全に否定された。

D　**朝廷儀式の復興**

1687年　221年ぶりに**大嘗祭**〔**大嘗会**〕を再興（東山天皇）

☆前代の霊元天皇の悲願であった。

1694年　192年ぶりに賀茂祭〔葵祭〕を再興

E　**赤穂事件（1701年～02年）**

禁裏御料も増やすなど朝幕関係が密接な中，勅使の幕府下向儀式重視の風潮の下で事件が発生。

1701年　播磨国赤穂藩主浅野長矩〔浅野内匠頭〕が，高家の旗本吉良義央〔吉良上野介〕を江戸城中で傷つけ，改易の上で即日切腹を命じられる。

1702年　大石良雄〔大石内蔵助〕ら赤穂浪士が，江戸本所の吉良邸において仇討ちに成功。

☆赤穂浪士の処分については議論があったが，結局全員（行方不明の１名を除く）切腹を命じられ，泉岳寺に葬られた。

F　**貨幣の改鋳〔元禄金銀〕(1695年)**

あ　原因

幕府財政の破綻

☆米を中心とする農民からの貢租収入の増加が見込めない反面，**商品貨幣経済の発達とともに生活水準が上昇，消費生活が華美になった**ことにより，支出が増大した。

☆その他，**綱吉の寺社造営・修築費，明暦の大火(1657年)後の江戸城・市街の再建費，主要鉱山からの金銀産出量の減少**などさまざまな要因があった。

い　実施

1695年，勘定吟味役(のち勘定奉行)**荻原重秀の建議**により**元禄小判**を鋳造。

☆従来の**慶長小判**の金含有率(84%)を大きく下回る悪貨(57%)。

う　影響

約500万両の**出目**(差額収入)を得て幕府財政は一時的に潤ったが，**貨幣価値の低下によりインフレーション〔物価高〕が進行**。消費者である武士・庶民の不満は増大。

☆**富士山の噴火**(1707年，宝永の大噴火)による駿河・相模などの降灰被害が人々に追い打ちをかけた。

☆被災地復興のため全国に「諸国高役(国役)金」を賦課。

③結果

A　**幕藩経済の破綻（はたん）**

支出の増大により，幕府・諸藩の財政難が深刻化。

B　**インフレの激化・極端な動物愛護による社会の混乱**

元禄金銀の改鋳・生類憐みの令が引き起こす。

C　**商品貨幣経済の発達**による**元禄豪商**の出現

あ　**鴻池家（こうのいけ）**

摂津国伊丹（いたみ）の酒造業から発展。のち**両替商（りょうがえしょう）・大名貸（だいみょうがし）**として大きく成長。３代目善右衛門（ぜんえもん）である宗利（むねとし）は**河内国**に**鴻池新田**を開発・経営。

い　**三井（みつい）家〔越後屋〕**

伊勢国松坂出身の**三井高利（たかとし）〔八郎右衛門（はちろうえもん）〕**が**越後屋呉服店・三井両替店**で財を成し，大きく発展。越後屋では「**現金〔銀〕掛け値なし**」の薄利多売（はくりたばい）商法を展開した。

☆孫の三井高房（たかふさ）は『町人考見録（こうけんろく）』を著し，安易な大名貸や贅沢（ぜいたく）を諫（いさ）めた。

う　**住友（すみとも）家**〔泉屋（いずみや）〕

17 世紀後半，４代友芳（ともよし）が**伊予国**で**別子（べっし）銅山**を発見。銀と銅を分離する南蛮吹（なんばんぶき）を導入し，銅商・両替商として大坂を中心に大きく発展。

え　淀屋辰五郎（たつごろう）

蔵元として大坂で財を成したが，幕府から贅沢を咎（とが）められ廃業となった。

お　奈良屋茂左衛門（もざえもん）　〔奈良茂（ならも）〕

江戸深川（ふかがわ）の材木商として財を成し，５代目は遊里（ゆうり）・芝居で豪遊の逸話（いつわ）を残すが，商売不振（ふしん）で廃業した。

か　紀伊国屋文左衛門（きのくにやぶんざえもん）〔紀文（きぶん）〕

紀伊国出身で，江戸に出て材木・蜜柑（みかん）で財を成した。奈良茂と同様に豪遊の逸話を残すが，商売不振で廃業した。

D　**元禄文化**の開花

商品貨幣経済の発達と，それによる町人の台頭が要因となる。

E　華美（かび）の風潮の広まり

武家の士風（しふう）が著しく退廃（たいはい）した。

３　正徳の政治⇒６代家宣・７代家継の治世（1709年～16年）

①主導者

京学の**朱子学者**である侍講**新井白石**と**側用人間部詮房**が，綱吉の政治（元禄時代）に反発し改革を推進。**将軍の地位・権威の強化および経済復興を主目的とし**，文治政治の頂点をなした。

☆ひと目で序列が明らかになるよう，衣服の制度を整え，家格や身分の秩序を重視した。

---

②政策

1709年　**生類憐みの令を廃止**

☆綱吉の死後，ただちに廃止。

1710年　**閑院宮家の創設**

☆伏見宮・桂〔京極〕宮・有栖川宮に追加して４宮家とし，将軍家と皇室の結びつきを強めた。

宝永小判〔乾字金〕の鋳造

☆金の含有率を慶長小判と同様に戻したが，目方を半分近く落とした。ので混乱を招いた。

1711年　**朝鮮通信使の待遇簡素化**⇒これまでの使節待遇が丁重にすぎたとした。

☆さらに**「日本国大君殿下」**の号を**「日本国王」と改めさせたが**，**対馬藩**の朱子学者**雨森芳洲**は猛反対した。

1712年　勘定奉行荻原重秀を罷免

６代家宣の死と７代家継の将軍就任⇒わずか３歳

1713年　分地制限令の改正

☆分地高・残高ともに面積１町・石高10石未満になることを禁止。

1714年　正徳小判の鋳造

☆**質・量ともに慶長小判と同様に戻し**物価騰貴を抑えようとしたが，かえって混乱を招き失敗した。

1715年　**海舶互市新例〔長崎新令・正徳新令〕**

☆銅の輸出能力相応に**長崎貿易を制限し，金・銀流出を防止。**

☆新井白石は，日本の保有する金の４分の１，銀の４分の３が貿易で海外に流出したと推計していた。

☆**中国〔清〕＝年間30隻・銀6000貫目**

オランダ＝年間 ２隻・銀3000貫目

1716年　将軍家継の死

☆まだ７歳で子はおらず，将軍家の本家は途絶える。

---

③結果

A　元禄時代に比べれば，幕政の一時的安定をもたらす。

B　儒教的理想主義に走り，現実と合致せず失敗。

C　思うような結果が得られない中，**側近政治が譜代・旗本の反発を買う。**

４　元禄文化

①元禄文化の特色

A　現世を「**浮き世**」とみる**現世肯定的**な風潮が一般化，人間性の追及に主眼が置かれ始めている。

B　**上方（京都・大坂）**の富裕な町人や武士が中心の文化である。

C　幕藩体制が安定し**文治政治が始まった**ことで，**儒学だけでなく学問全般が重視されている**。

D　鎖国体制が確立したことで，外国の影響が少なくなり**日本独自の文化**が成熟。

E　紙の生産や出版・印刷の技術，交通の発達による流通網の発展が，文学・美術・工芸・演劇の広い受容を下支えしている。

---

②文学

文治政治期の朝廷と幕府の協調の影響で，諸大名が公家から和歌の指導を受けたように，和歌は武士の間でさかんになった。それに対し，和歌以外の文学は町人たちが担った。

A　**井原西鶴**

大坂の町人。初め西山宗因に学び談林俳諧で注目されたが，やがて**浮世草子**とよばれる小説に転向。愛欲や金銭に執着しつつ，自らの才覚で「浮き世」を生きる人間の生々しい姿を描写，享楽的現世を大胆に肯定した。

あ　**好色物**

『**好色一代男**』『好色一代女』『好色五人女』

い　**武家物**

『**武道伝来記**』『**武家義理物語**』

う　**町人物**

『**日本永代蔵**』『**世間胸算用**』

B　**松尾芭蕉**

伊賀国出身。奇抜な趣向を狙う談林俳諧に対し，「**さび**・かるみ・しおり・ほそみ」で示される幽玄閑寂の**蕉風〔正風〕俳諧**を確立。連歌の発句に過ぎなかった俳句を，独立した文学作品に高めた。向井去来ら**蕉門十哲**とよばれる弟子を輩出した。

あ　**俳諧紀行文**

『野ざらし紀行』『笈の小文』『**奥の細道**』

☆地方の農村・都市にも，芭蕉の一行を待ち受け支えた人々が存在した。

い　俳句集⇒「俳諧七部集」

『春の日』『冬の日』『ひさご』『猿蓑』など。

C　**近松門左衛門**

武士出身の**人形浄瑠璃・歌舞伎脚本家**。実話や歴史に題材を求め，「憂き世」における義理と人情の葛藤を鋭く描写。

あ　**世話物〔心中物〕**

『**曽根崎心中**』『冥途の飛脚』『心中天網島』など。

い　**時代物**

『**国性爺合戦**』『出世景清』など。

---

③芸能

A　**人形浄瑠璃**⇒現在の**文楽**の源流

近松門左衛門の作品は，語り＝**竹本義太夫**（**義太夫節**として独自に音曲化），人形遣い＝辰松八郎兵衛で，大坂の竹本座において空前の人気を誇った。

B　**歌舞伎**

能や狂言は公家・武家の世界にとどまったのに対し，江戸・上方には常設の**芝居小屋**が置かれるようになり広く普及した。

あ　**市川団十郎**

超人的な**荒事**を得意とし，**江戸**で活躍。

い　**坂田藤十郎**

恋愛劇の**和事**を得意とし，**上方**で活躍。

う　芳沢あやめ

女形の代表として，上方で活躍。

---

④**儒学**⇒文治政治の象徴

幕藩体制が安定期に入り，儒学が人々の社会における役割を説くものとして重視される。

☆とくに**朱子学**〔宋学〕は大義名分論など，上下の身分秩序や礼節を重視したため，幕府・諸藩に封建社会の**教学**として手厚く保護された。

Ａ　**朱子学派⇒京学**

あ　**藤原惺窩**の創始⇒京都相国寺の僧

い　**林羅山**〔**道春**〕⇒上野忍ヶ岡に**私塾弘文館**を開設。**林家**の祖。

う　**林鵞峰**〔**春斎**〕⇒羅山を継いで**歴史書『本朝通鑑』を完成**。

え　**林鳳岡**〔**信篤**〕⇒５代綱吉の信任を受け，初代**大学頭**となる。

お　石川丈山

か　**松永尺五**　⇒貞門俳諧の創始者松永貞徳の子。

き　**木下順庵**　⇒**加賀藩主前田綱紀，のち５代将軍綱吉に仕える。**

く　**新井白石**　⇒**６代家宣・７代家継の侍講**として**正徳の政治**を展開。
☆『**読史余論**』『**古史通**』『**藩翰譜**』『**折たく柴の記**』を著す。

け　**雨森芳洲**　⇒**対馬藩宗氏に仕え**，朝鮮通信使問題で新井白石と対立。

こ　**室鳩巣**　⇒**加賀藩主前田綱紀，のち８代吉宗に仕える。**
☆『**六諭衍義大意**』『兼山麗沢秘策』『駿台雑話』を著す。

Ｂ　**朱子学派⇒南学**〔**海南学派**〕

あ　**南村梅軒**の創始⇒**土佐**の**谷時中**が継承し，学派を確立。

い　**野中兼山**　⇒土佐藩家老として藩政を主導。

う　**山崎闇斎**　⇒**会津藩主保科正之**に礼遇される。吉川惟足（吉川神道の創始者）に学び神道を儒教流に解釈，道徳性の極めて強い**垂加神道**を唱える。
☆神の道と天皇の徳が一体であることを解くことから，山崎闇斎一門の「崎門学」は，幕末の尊王論の根拠ともなった。

Ｃ　**陽明学派**

明の**王陽明**が創始。朱子学の知識偏重を批判，実践を重視し「知行合一」を説いた。時世批判の傾向が強く，幕府から警戒された。

あ　**中江藤樹**　⇒もと朱子学者で**日本陽明学の祖**。近江国に私塾藤樹書院を開設し「近江聖人」とよばれる。
☆『翁問答』などを著す。

い　**熊沢蕃山〔了介〕**⇒**池田光政に仕え，岡山藩家老となる。**
☆経済政策書『**大学或問**』で，武士の土着や参勤交代の緩和を主張し幕政を批判。**幕府により下総国古河に幽閉される。**

D　**古学派**

孔子・孟子の原典への復帰を主張し，実証・典拠を重視。朱子学を批判した。

あ　**山鹿素行**　⇒独自に「**聖学**」を唱え朱子学を攻撃，幕府により播磨国赤穂に流される。
☆『**聖教要録**』『**中朝事実**』『**武家事紀**』を著す。
☆「**士道**」**の大成者**としても有名。

い　**伊藤仁斎・東涯**⇒**京都**堀川に**私塾古義堂**〔**堀川塾**〕を開設し，**古義学派**〔**堀川学派**〕を創始。
☆父の仁斎は『論語古義』『孟子古義』『童子問』，子の東涯は歴史書『制度通』などを著す。

う　**荻生徂徠**　⇒**江戸**に**私塾蘐園塾**を開設し，**古文辞学派**〔**蘐園学派**〕を創始。**柳沢吉保のち８代吉宗に仕える。**
☆吉宗の諮問に答え『**政談**』を献じ，統治の具体策を説く**経世論**を展開。

え　**太宰春台**　⇒師の荻生徂徠の経世論を継承・発展させ，『**経済録**』『**経済録拾遺**』を著す。

E　**折衷学派**

先行の諸学説を選択・折衷して正しい解釈に達しようとする学派。片山兼山・井上金峨らが唱え，田沼時代に流行した。

F　**考証学派**

経書の解釈を，一定の思想的立場から行うのではなく，確実な典拠にもとづき実証的かつ客観的に行おうとする学派。江戸時代後期にさかんとなり，その文献考証の方法は，国学や歴史学に多大な影響を与えた。

⑤諸学問の発達

儒学の発達が，合理的で現実的な考えという点で他の学問にも大きな影響を与えた。

A　**歴史学**

あ　**林家**(りんけ)　⇒**林羅山**(はやしらざん)・**鵞峰**(がほう)父子が，幕命により『**本朝通鑑**(ほんちょうつがん)』を編纂。
☆北宋の『資治通鑑(しじつがん)』にならった編年体の歴史書。

い　**水戸藩**　⇒**徳川光圀**(みつくに)が明から**朱舜水**(しゅしゅんすい)を招き，江戸の**彰考館**(しょうこうかん)で神武(じんむ)～後小松天皇を紀伝体で著す『**大日本史**(だいにほんし)』を編纂。明治期の1906年完成。

う　**新井白石**　⇒『**読史余論**(とくしよろん)』『**古史通**(こしつう)』『**藩翰譜**(はんかんふ)』を著す。

B　**本草学**⇒薬学を中心とする博物学

あ　**貝原益軒**(かいばらえきけん)　⇒『**大和本草**(やまとほんぞう)』を著す。朱子学者でもあり，道徳書『**和俗童子訓**』や養生書の『養生訓』も有名。

い　**稲生若水**(いのうじゃくすい)　⇒**加賀藩主前田綱紀に仕え**，『**庶物類纂**(しょぶつるいさん)』を著す(死後に完成)。

C　**農学**

宮崎安貞(やすさだ)が著した初の本格的農書『**農業全書**』が広く普及する。
☆明の徐光啓(じょこうけい)が編んだ『農政全書』の影響を受ける。

D　**和算**⇒測量・商取引などの必要から発達した日本独自の数学

あ　**吉田光由**(よしだみつよし)　⇒和算・算盤(そろばん)の普及に功績があった。『**塵劫記**(じんこうき)』を著す。

い　**関孝和**(せきたかかず)　⇒筆算式代数学・円理(えんり)の創始などに多大な業績をあげた。『**発微算法**(はつびさんぽう)』を著す。

E　**天文**(てんもん)**・暦学**(れきがく)

1684年，**安井算哲**(やすいさんてつ)〔**渋川春海**(しぶかわしゅんかい)〕が日本独自の**貞享暦**(じょうきょうれき)を完成，幕府の**天文方**(てんもんかた)に任命される。

F　**医学**(古医方(こいほう)＝理論より実践中心の古代漢方医学)

あ　名古屋玄医(げんい)⇒日本における古医方の先駆者。京都の医師。

い　**山脇東洋**(やまわきとうよう)　⇒18世紀半ば，初めて腑分(ふわ)け(死体の解剖)を行い『**蔵志**(ぞうし)』を著す。京都の医師。

G　**洋学**の先駆

あ　**西川如見**(じょけん)　⇒**長崎**の天文・地理学者。『**華夷通商考**(かいつうしょうこう)』を著す。

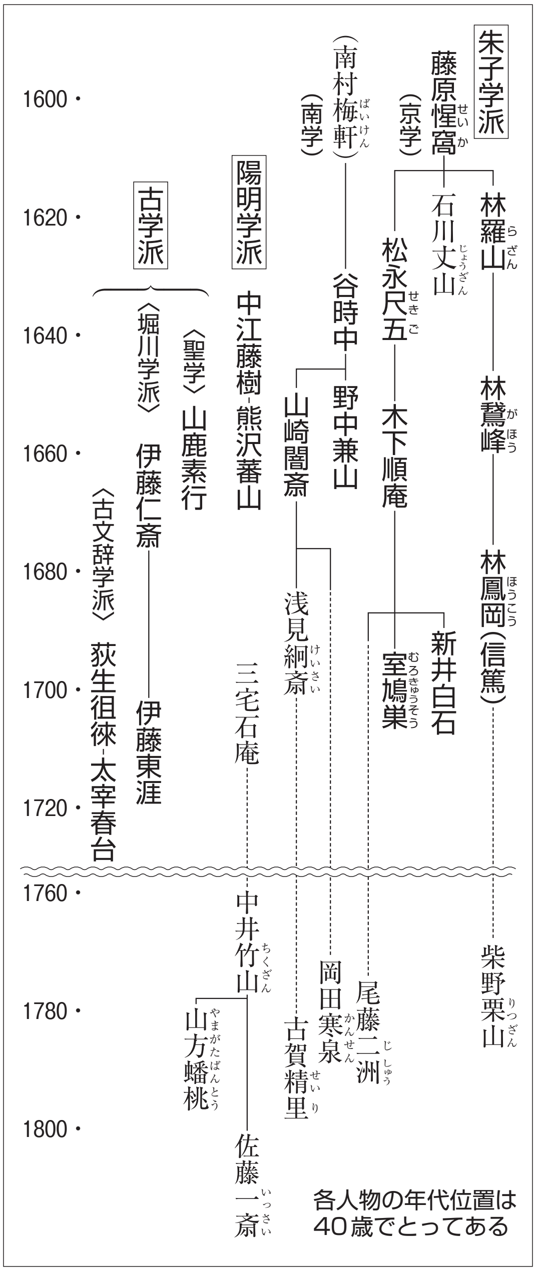
い　**新井白石**　⇒**屋久島**(やくしま)に潜入した**イタリア人宣教師シドッチ**を尋問(じんもん)し，『**采覧異言**(さいらんいげん)』『**西洋紀聞**』を著す。

H　国文学の研究⇒のち**国学**へと成長

あ　**北村季吟**（きぎん）　⇒幕府の**歌学方**。『**源氏物語湖月抄**（こげつしょう）』などを著す。

い　**戸田茂睡**（もすい）　⇒古今伝授（こきんでんじゅ）や制（せい）の詞（ことば）（＝和歌に使えない言葉）など，中世歌学の伝統を排除。『**梨本集**』を著す。

う　**契沖**（けいちゅう）　⇒下河辺長流（しもこうべちょうりゅう）の影響を受け，徳川光圀（みつくに）（水戸藩）の依頼で『**万葉代匠記**（まんようだいしょうき）』を著す。



儒学者系統図

⑥芸術

A　建築

あ　**東大寺大仏殿（大和国）**⇒世界最大の木造建築

い　善光寺本堂　（信濃国）

B　庭園

将軍が大名屋敷を訪れる「御成」が増え，大名側も屋敷に趣向を凝らした廻遊式庭園を設けた。

あ　後楽園（江戸，水戸藩）

☆明の朱舜水の儒教思想の影響がみられる。

い　後楽園（備前国，岡山藩）

☆水戸の偕楽園，金沢の兼六園とともに日本三名園とされる。

う　六義園（江戸，柳沢吉保）

☆５代将軍綱吉の側用人であった柳沢吉保自らが設計した庭園。

C　絵画

あ　**狩野派**

幕府や大名の御用絵師として画壇に君臨するが，マンネリズムにより衰退。破門された？英一蝶は風俗画で注目を浴びる。

い　**土佐派**

土佐光起が朝廷絵所預となり土佐派を再興するが，画風は停滞。

☆『秋郊鳴鶉図』（土佐光起）

う　**住吉派**

住吉如慶の子**具慶**が土佐派に対抗し分離。狩野派に加えて幕府御用絵師となり江戸に大和絵を広めるが，創造性に欠け衰退した。

☆**『洛中洛外図巻』（住吉具慶）**

え　**琳派**

京都の**尾形光琳**が，俵屋宗達の装飾的な画法を取り入れ創始。装飾画において光琳模様を完成。

☆**『紅白梅図屏風』『燕子花図屏風』（尾形光琳）**

☆光琳は蒔絵**『八橋蒔絵螺鈿硯箱』**も制作。

お　**浮世絵**⇒民衆的風俗画

安房国出身の**菱川師宣**が浮世絵版画を創始。安価に入手できることもあり人気を得たが，当時は一枚絵は少なく，多くは絵本・挿絵本。

☆**『見返り美人図』（菱川師宣の肉筆画）**

D　工芸・その他

あ　陶磁器

野々村仁清(ののむらにんせい)が上絵付法(うわえつけ)をもとに**色絵**(いろえ)を完成，**京焼**(きょうやき)**の祖**となる。

☆『色絵藤花文茶壺(いろえとうかもんちゃつぼ)』『色絵月梅文茶壺(つきうめもん)』『色絵吉野山図茶壺』(野々村仁清)

☆仁清に学んだ**尾形乾山**(おがたけんざん)(光琳の弟)も装飾的で高雅(こうが)な作品を残す。

い　染物(そめもの)

京都の**宮崎友禅**(ゆうぜん)が，**友禅染**(ゆうぜんぞめ)〔京友禅〕を創始。綸子(りんず)や縮緬(ちりめん)の生地(きじ)に華やかな模様を表した。

☆のち金沢で加賀友禅も興(おこ)る。

う　**鉈彫**(なたぼり)

ノミで彫(ほ)った跡(あと)を木の表面に残す荒削りで素朴な作品。美濃国出身の**円空**(えんくう)が蝦夷地を含む全国を行脚(あんぎゃ)し，各地で多数の仏像(円空仏(えんくうぶつ))や神像(しんぞう)を制作。

☆『**両面宿儺像**(りょうめんすくな)』『護法神像(ごほうしん)』(**円空**)

5　農業の発達

①耕地面積の増大

幕府・藩の勧農政策を背景に，164万町歩（17世紀初め）から297万町歩（18世紀初め）へと，**2倍**近くに増大した。

A　治水・灌漑技術の進歩

あ　**玉川上水**　（1654年）

江戸の町人玉川兄弟（庄右衛門・清右衛門）により完成。多摩川から江戸に引水。神田上水とともに江戸市中の飲用水となった。

い　**箱根用水**　（1670年）

駿河国深良村の名主大庭源之丞・江戸浅草の町人友野与右衛門により完成。相模国芦ノ湖から引水。

う　**見沼代用水**（1728年）

幕臣の井沢弥惣兵衛が，見沼新田（武蔵国）開発のため利根川から引水。

B　**新田開発**

開発後，検地を受けるまでの数年間は**鍬下年季**といい，年貢諸役の徴収はなかった。また，本田畑と異なり勝手作も許されたので，農民も積極的に開発に取り組んだ。

☆椿海（下総国）などの干拓も行われた。

あ　土豪開発新田

い　**代官見立新田**

う　藩営新田

え　村請新田

お　**町人請負新田**

川口新田（摂津国），**紫雲寺潟新田（越後国）**，**鴻池新田（河内国）**，佐倉新田（下総国）など。

②農業技術の発達

A　**農具の改良**

しかし，牛や馬，大型の農具などを用いた大規模な農業は発達しなかった。

あ　**備中鍬**（びっちゅうぐわ）⇒田の深耕具（しんこうぐ），従来の風呂鍬（ふろぐわ）にかわり普及。

い　**千歯扱**（せんばこき）⇒稲の脱穀具（だっこくぐ），従来の扱箸（こきばし）にかわり普及。俗に“**後家倒し**（ごけだおし）”という。

う　殻竿（からさお）⇒穀類（こくるい）・豆類の脱穀具，竿（さお）の先に短い竿を付けて回転させ打つ。

え　**唐箕**（とうみ）⇒玄米（げんまい）と籾殻（もみがら）の選別具，従来の箕（み）にかわり普及。

お　**千石簁**（せんごくどおし）⇒米と糠（ぬか）の選別具，万石通（まんごくどおし）という場合もある。

か　**踏車**（ふみぐるま）⇒水田の揚水機（ようすいき），故障がちで効率の悪い**竜骨車**（りゅうこつしゃ）にかわり普及。

B　**金肥**（きんぴ）の使用⇒商品作物栽培に使用

従来の刈敷（かりしき）・草木灰（そうもくばい）や厩肥（きゅうひ）・下肥（しもごえ）に加え，**干鰯**（ほしか）・**〆粕**（しめかす）・**油粕**（あぶらかす）・糠（ぬか）などを使用。

C　農薬の使用

享保期以降，おもに西日本で害虫（がいちゅう）（蝗（いなご）・ウンカなど）の駆除（くじょ）に鯨油（げいゆ）を使用。また，虫送りという悪霊（あくりょう）退散の行事もあった。

D　**農学**の発達と農政家

あ　『**清良記**（せいりょうき）』（寛文期？）

著者不明，土居清良（どいきよよし）をめぐる軍記物語で，その一部分は新しい栽培技術や農業知識を説く，わが国最古の農書とされる。

い　**『農業全書』（元禄期）**

明の徐光啓（じょこうけい）の『農政全書』を学んだ**宮崎安貞**（やすさだ）（福岡藩に仕えたのち帰農）が，見聞（けんぶん）・体験をもとに1697年に完成。**わが国初の本格的農書。**

う　**『民間省要**（せいよう）**』（享保期）**

東海道川崎宿（じゅく）の名主から代官に抜擢（ばってき）された**田中丘隅**（きゅうぐ）が，８代将軍吉宗に献じた意見書。

え　**『農政本論』（化政期）**

経世家**佐藤信淵**（のぶひろ）が著した農政論。

お　**『広益国産考**（こうえきこくさんこう）**』『農具便利論』（化政期）**

諸国を廻（めぐ）った農政家**大蔵永常**（おおくらながつね）が著した農書。商品貨幣経済の発展に対する農家経営として，商業的農業・農産加工を力説（りきせつ）した。

か　**二宮尊徳**（にのみやそんとく）**〔金次郎〕（天保期）**

相模国小田原藩の農民出身。農業技術と道徳とを結びつけた独自の

「**報徳仕法**」による農村復興に心血を注いだ。のち水野忠邦に登用され幕臣となる。

☆その節約・勤勉の精神は，戦前の修身教育の素材となった。

き　**大原幽学（天保期）**

全国を流浪後，下総国で村政改革に尽力した農民指導者。のち幕府から農民扇動の嫌疑をうけ自害。

く　その他の農書

『会津農書』（佐瀬与次右衛門），『百姓伝記』（著者不明），『耕稼春秋』（土屋又三郎），『田法記』（岩崎佐久治），『老農夜話』（中台芳昌）など。

---

③商品作物栽培の発達

商業的農業の進展。地主たちは余剰米も商品として販売した。

A　**四木**

楮・桑・茶・漆

B　**三草**

紅花・藍・麻

C　その他

綿花〔木綿〕・甘藷〔さつまいも〕・甘蔗〔さとうきび〕・櫨〔蠟〕・朝鮮人参など。

D　**特産物・特産地**の形成

紅花（出羽村山〔最上〕），漆（会津・輪島など），葡萄（甲斐），蜜柑（紀伊），茶（山城宇治・駿河），**油菜〔菜種〕（近江・摂津・河内）**，**綿花〔木綿〕（河内・尾張・三河**・伊勢など），藺草（備前・備中・備後），**藍〔藍玉〕（阿波）**，黒砂糖（薩摩・讃岐），タバコ（薩摩）など。

---

④牧畜の発達⇒農耕・軍事・交通用として牛馬を重視

A　馬

南部藩，津軽藩など東北地方。

B　牛

但馬，出雲など山陰地方。

６　諸産業の発達

①**林業**⇒日本は国土の大半が山でおおわれている

A　城下町における建築資材の大量需要

17 世紀末以降，飛騨や紀伊の材木問屋の活躍により，産地は陸奥・出羽や蝦夷地まで広がる。

B　**幕府・諸藩の保護**や植林

尾張藩の**木曽檜**，秋田藩の**秋田杉**など。

☆専業の職人を杣人とよぶ。

C　その他

紀伊熊野や伊豆・下総などでは高級な炭がつくられ，幕府・大名への貢納品や，三都・城下町向けの商品として販売された。

☆木地師とよばれる木工職人も各地で活躍し，木製の器や日用品が多くつくられた。

---

②**漁業**⇒日本は周囲をすべて海に囲まれている

A　漁法

地曳網・船引網・定置網などの網漁を中心とする，**上方漁法**の伝播。

☆摂津・和泉・紀伊などの上方漁民により全国に広がった。

☆入会漁業（共同）から網元経営（網元と網子）へ。

B　獲物と漁場

鰯（上総九十九里浜），**鰊（蝦夷地松前）**，鮪（肥前五島），鰹（土佐），鯛（瀬戸内海），**鯨**（紀伊・土佐・長門・肥前），**コンブ（蝦夷地）**，**俵物〔俵物三種＝いりこ・干し鮑・ふかひれ〕（蝦夷地）**，海苔（江戸湾），かき（広島湾）など。

---

③**製塩業**

瀬戸内海沿岸を中心に，**入浜塩田**が発達。

☆**赤穂（播磨国）**，行徳（下総国）など。

---

④**鉱山業**⇒17 世紀後半に金・銀は減少

A　**幕府直営**

金山（**佐渡相川**・伊豆），**銀山**（**但馬生野・石見大森**），**銅山**（**足尾**）など。

B　藩営

あ　秋田藩

銀山（院内・阿仁），銅山（阿仁）

い　南部藩

銅山（尾去沢），鉄山（釜石）

☆釜石鉄山は，幕末に鉄鉱石と木炭で製鉄を開始。

C　**住友家**〔泉屋〕の経営

銅山（**別子**）

D　技術の進歩⇒露天掘から坑道法へ

あ　**灰吹法**（金銀）

室町時代，**博多商人神谷寿禎**により朝鮮から伝来。

い　南蛮吹（銅）

銀と銅を吹き分ける方法。住友家が別子銅山で導入。

う　**たたら精錬**〔製鉄〕

砂鉄と木炭を原料として玉鋼をつくり出す方法。出雲地方を中心に古代から行われる。

E　その他の資源

石油（越後），**石炭**（**肥前**）など。

〈***Note***〉

７　手工業の発達

①生産形態の発展

A　**農村家内工業**　（17世紀）

原料・器具ともに農家の自前で行う手工業。

B　**問屋制家内工業**（18～19世紀）

問屋商人が資金・原料・器具を前貸しし，農家で行う手工業。

C　**工場制手工業**〔**マニュファクチュア**〕（19世紀）

奉公人〔賃金労働者〕を１カ所に集め，**分業にもとづく協業**を行う。

☆酒造業・鉱山業では，17世紀の段階ですでにみられた。

---

②織物業

A　**絹**⇒高級品

18世紀中ごろには，京都西陣の**高機**による技法が，桐生など各地の機業地に広まる。

☆**西陣織**（**京都**），**桐生絹**・伊勢崎絹（**上野**），**足利絹**（**下野**），結城紬（下総），**丹後縮緬**（**丹後**），上田紬（信濃），博多織（筑前）など。

B　**麻**と**木綿**⇒庶民の代表的衣料

地機〔いざり機〕による農村の女性労働力が支える。

☆**麻**　⇒**越後縮**〔**小千谷縮**〕（**越後**），近江麻〔近江蚊帳〕（近江），奈良晒（大和），薩摩上布（薩摩）など。

☆**木綿**⇒**久留米絣**（**筑後**），小倉織（豊前），有松絞（尾張），尾張木綿，河内木綿など。

---

③その他の手工業と名産

A　**和紙**⇒**流漉**（ながしすき）の技術が普及

奉書紙（ほうしょがみ）・**鳥**（とり）**の子紙（越前）**，**美濃紙（美濃）**，**杉原紙**（すいばらがみ）**（播磨）**，土佐紙（土佐）など。

☆楮（こうぞ）をおもな原料とする。

B　**陶磁器**

有田焼（ありたやき）**〔伊万里焼**（いまり）**〕（肥前）**，**京焼**（きょう）〔清水焼（きよみず）など〕・楽焼（らく）**（京都）**，**瀬戸焼**・常滑（とこなめ）焼**（尾張）**，美濃焼〔多治見焼（たじみ）〕（美濃），**九谷焼**（くたに）**（加賀）**，信楽焼（しがらき）（近江），備前焼（備前），萩焼（はぎ）（長門），高取焼（たかとり）（筑前），**唐津焼**（からつ）**（肥前）**など。

☆各地の城下町近郊では，安価な素焼（すやき）が大量に生産された。

C　**漆器**（しっき）

輪島塗（わじまぬり）**（能登**（のと）**）**，**会津塗**・南部塗**（陸奥）**，飛驒春慶塗（飛驒（ひだ））など。

D　**醸造**（じょうぞう）

あ　**清酒**（せいしゅ）　　**伏見（山城）**，**灘・伊丹**（いたみ）・池田**（摂津）**など。

い　**醤油**（しょうゆ）　　**野田・銚子**（ちょうし）**（下総）**，京都，竜野（たつの）（播磨），湯浅（紀伊）など。

８　交通の発達

①背景

豊臣政権に続く江戸幕府の全国統一による，**商品流通網の形成**と参勤交代の制度化。

☆商品作物生産が進展，庶民の旅行も増加。

---

②水上交通⇒大量のモノの移動

A　河川(かせん)・湖沼(こしょう)交通

淀川(よどがわ)・利根川(とねがわ)・信濃川(しなのがわ)や琵琶湖・霞ヶ浦(かすみがうら)水運がとくに発達。

あ　**角倉了以(すみのくらりょうい)（京都）**が開発

保津川(ほづ)〔大堰川(おおい)〕・**賀茂川(かも)・高瀬川(たかせ)（山城），天竜川（遠江(とおとうみ)），富士川（駿河）**

い　**河村瑞賢(かわむらずいけん)（江戸）**が開発

安治川(あじ)（摂津）

B　海上交通

あ　**南海路　　　　（大坂⇒⇒⇒江戸）**

菱垣廻船(ひがきかいせん)（17世紀前半～），**樽廻船(たる)**（18世紀前半～）が就航(しゅうこう)。

☆19世紀以降，船足(ふなあし)の速さにより**樽廻船が圧倒的優位**に立つ。

☆その他に尾州(びしゅう)廻船の内海船(うつみぶね)なども就航。

い　**東廻り海運〔航路〕（東北⇒⇒⇒江戸）**

寛文(かんぶん)年間の1671年，**河村瑞賢が整備**。

う　**西廻り海運〔航路〕（東北⇒⇒⇒大坂）**

寛文年間の1672年，**河村瑞賢が整備**。

☆出羽の酒田を起点としていたが，のち蝦夷地まで延長され，日本海には**北前船(きたまえぶね)**が就航。

〈***Note***〉

③陸上交通⇒ヒトの移動のちモノの移動も

幕府・大名・旗本などの御用通行が最優先とされる。

A　**五街道**⇒江戸の**日本橋**を起点とし，17 世紀半ばからは**道中奉行**により管理された。

あ　**東海道**　　　　　　**（江戸日本橋〜京都三条大橋）**

品川〜大津**53 宿**に 100 人・100 疋を常備。のち大坂まで 4 宿を加え延長。

☆**関所⇒箱根（相模国），新居〔今切〕（遠江国）**

い　**中山道〔中仙道〕**　　**（江戸〜草津）**

板橋〜守山**67 宿**に 50 人・50 疋を常備。

☆関所⇒碓氷〔横川〕（上野国），木曽福島（信濃国）

う　**甲州道中〔甲州街道〕（江戸〜下諏訪）**

内藤新宿〜上諏訪 44 宿に 25 人・25 疋を常備。

☆関所⇒小仏（武蔵国）

え　**日光道中〔日光街道〕（江戸〜日光）**

千住〜鉢石 21 宿に 25 人・25 疋を常備。

☆関所⇒栗橋（武蔵国）

お　**奥州道中〔奥州街道〕（宇都宮〜白河）**

千住〜白河 27 宿に 25 人・25 疋を常備。

☆宇都宮までの 17 宿は日光道中と共通。

B　**脇街道〔脇往還〕**⇒勘定奉行が管理

伊勢街道，北国街道，中国街道・長崎街道など。

C　その他の街道

例幣使街道（中山道の倉賀野〜日光道中の今市）

☆朝廷から日光東照宮への使者（日光例幣使）が通行。

D　設備

あ　**宿駅〔宿場〕**

問屋場　　　⇒伝馬役の差配・公用の書状・継飛脚の人馬継立などを行う，公営の施設。

本陣・脇本陣　⇒大名・公家・幕府役人が利用する民営の宿。

旅籠屋・木賃宿⇒一般旅行者が利用する民営の宿。

い　その他

一里塚（36 町＝約 4 km ごと），並木，橋，渡船場，茶屋，馬，駕籠など。

E　障害

治安維持を目的としたが，商品輸送には悪影響。

あ　**関所**

日の出から日の入りまで通行可能で，通行には関所手形が必要。とくに関東地方の関所では「**入鉄砲に出女**」を厳しく取り締まった。

い　渡し（架橋の禁止）

川越人足⇒**大井川**・安倍川（**駿河国**）など。

渡船　　⇒天竜川（遠江国），富士川（駿河国）など。

☆その他，海路を行く“七里の渡し”（東海道の宮〜桑名）もあった。

F　通信⇒**飛脚**

あ　**継飛脚**

幕府公用の飛脚。老中・京都所司代・大坂城代など幕府高官の利用に限られた。

い　**大名飛脚**

藩公用の飛脚。江戸藩邸と国許・大坂蔵屋敷との連絡にあたった。

う　**町飛脚**〔定六・三度飛脚〕

一般の飛脚。三都の商人が運営する**飛脚問屋**が業務を扱った。

---

④結果

三都（江戸・大坂・京都）を中心としたモノ・ヒトの集散が活発化し，全国市場を形成。

９　商業の発達

①背景

A　**幕府・諸藩の年貢米換金の必要性**

B　**幕藩体制の確立による武士の都市生活**

☆参勤交代による江戸・主要街道の発展と各地の城下町の発展。

C　**全国的な交通網の発達**

D　**準統一的貨幣の使用**

---

②全国的商品流通網の成立

A　**蔵物（年貢米・国産品）・納屋物**（一般流通品）の流通

三都に大量に流入・消費後，全国へ。

B　**蔵元・掛屋**

大坂中之島に諸藩が設置した**蔵屋敷**で業務に従事。

☆蔵元は**蔵物の出納・売却**，掛屋は**代銀の保管や藩への送付**にあたるが，
　双方を兼任する場合も多かった。

C　**札差**〔蔵宿〕

江戸浅草の蔵前で，**旗本・御家人相手に蔵米の換金にあたる。**

D　**卸売市場**〔専門市場〕

都市の**問屋**が，生産地や都市の**仲買**を通じ，**小売**や武家に対して納屋物を売却。

あ　**大坂**

堂島の米市，雑喉場の魚市，天満の青物市。

い　**江戸**

日本橋の魚市，神田の青物市。

う　名古屋

熱田の魚市，枇杷島の青物市。

---

③問屋商人の発達

同業・異業を問わず，利害を同じくする団体である**仲間**・組合を形成。**仲間掟**を定めて営業の独占をはかる。**大坂**の十人両替や**二十四組問屋**(**荷積問屋**)，**江戸**の**十組問屋**(1694年結成，**荷受問屋**)などが有名。

---

④株仲間の結成

A　意味

株札の交付をうけ，**株**(**幕府・諸藩公認の営業独占権**)をもつ**仲間**。都市問屋商人が主流となった。

B　変遷

あ　江戸時代初期(17世紀前半)＝禁止(糸割符仲間・金座・銀座などは例外)

☆初代将軍家康

い　元禄時代　(17世紀後半)＝黙認

☆５代将軍綱吉

う　**享保の改革　(18世紀前半)＝公認**

☆８代将軍吉宗

え　**田沼時代　(18世紀後半)＝奨励**(**運上**・**冥加**を納めさせる)

☆10代将軍家治，**老中田沼意次**

お　**天保の改革　(1841年)　＝解散**

☆12代将軍家慶，**老中首座水野忠邦**

か　**嘉永年間　(1851年)　＝再興**(在郷商人も参加)

☆12代将軍家慶，老中首座阿部正弘

き　明治維新期　(1872年)　＝廃止

☆明治新政府

C　義務

運上〔**運上金**〕・**冥加**〔**冥加金**〕とよばれる営業税を負担。

---

⑤その他の商人の活躍

近江商人が全国に進出，富山売薬商人も活躍した。

10　貨幣と金融

①三貨(金貨・銀貨・銭貨)

A　**金座⇒後藤庄三郎**の管轄

江戸・京都に設置後，**江戸**に一本化。**小判**などの金貨を鋳造。当初は京都の大判座(後藤四郎兵衛の管轄)も含んだ呼称，のち江戸の小判座のみをさす。

☆金貨の単位＝両・分・朱の４進法

B　**銀座**⇒大黒常是らの管轄

伏見・駿府に設置，京都・江戸に移されたのち，最終的に**江戸**に一本化。**丁銀**・**豆板銀**などの銀貨を鋳造。

☆銀貨の単位＝貫・匁・分・厘・毛(重量単位)

C　**銭座**⇒民間請負で金座・銀座の支配を受ける

江戸･坂本に設置後，10 カ所前後に拡大。**寛永通宝**(1636 年〜)などの**銅銭**･鉄銭・真鍮銭を鋳造。

☆銭貨の単位＝貫・文

D　**問題点**

あ　**金貨・銭貨は計数〔定位〕貨幣，銀貨は秤量貨幣。**

☆田沼時代の明和五匁銀・**南鐐二朱銀**は，例外的な計数銀貨。

い　**江戸(東日本)の金遣い，大坂(西日本)の銀遣い。**

う　**三貨換算率の変動**による混乱

☆1609 年，**金１両＝銀 50 匁＝銭４貫〔4000 文〕**と公定されたが，1700 年，金１両＝銀 60 匁と改めた。実際はその時々の相場に従う。

え　結局，明治時代まで**正式な統一的貨幣制度は成立せず。**

---

②紙幣

A　**藩札**⇒17 世紀後半〜

藩内のみに通用，発行には幕府の許可が必要だが，大多数の藩が利用。

☆1661 年，福井〔越前〕藩発行のものが最初。

B　私札⇒江戸時代前期

畿内やその周辺の先進地域で商人が少額を発行。大坂・堺など地域限定で通用。

---

③両替商

A　**本両替**(ほんりょうがえ)⇒大坂に多い

三貨の両替や秤量をおもに，預金(よきん)・貸付・為替(かわせ)・手形発行などの銀行業務も行い，**大名貸**(だいみょうがし)となる者もあった。

☆幕府や藩の公金の出納を行うものもあり，財政活動を支えた。

☆大坂の有力な本両替は，十人(じゅうにん)両替に選任(1670年＝寛文年間)される。

☆**鴻池**(こうのいけ)・天王寺屋・平野屋(**大坂**)，三谷(みたに)・鹿島(かじま)屋(江戸)，**三井両替店(三都)**などが有名。

B　銭(ぜに)両替⇒各地に存在

手数料を取り，金・銀貨と銭貨の交換を行う。商品売買との兼業も多かった。

---

④庶民金融

A　質屋・高利貸

B　無尽(むじん)・頼母子(たのもし)⇒相互金融

11　三都の発達⇒17世紀後半

①江戸（「将軍のお膝元」）

1457年，扇谷上杉家の執事**太田道灌**が**江戸城**を築城。1590年の**徳川家康入府**以降，急速に発展。**明暦の大火（1657年）からの復興**後，市域をさらに拡大。幕府所在地で，大名の藩邸や旗本・御家人の屋敷もあり，**人口100万人**を超える世界有数の**政治都市・消費都市**。

---

②大坂（「天下の台所」）

豊臣秀吉が，石山本願寺跡に**大坂城**を築き，堺などの町人を移住させて発展。中之島を中心に諸藩が**蔵屋敷**を置き，年貢米や国産品を**蔵物**として販売，**全国の物資を集散**する**商業都市**。幕府は大坂城代・大坂町奉行を置き，西日本支配の要とする。人口約35～40万人。

---

③京都

古代からの**朝廷所在地**で，寺院の本山や大寺社があり，医者・儒者・芸能者が集中する**首都・文化都市**。幕府は京都所司代・京都町奉行・二条城代を置き，西日本の管轄と朝廷・寺社の統制や畿内・周辺諸国の支配に当たった。人口約35～40万人。

☆呉服屋・両替商など大商人の本店も多く存在し，西陣織・友禅染・京焼などを代表とする高い技術を用いた手工業生産も発達した。

〈***Note***〉

第14講　確認テスト

1　３代将軍家光が亡くなり，慶安の変〔由井正雪の乱〕が発覚した年は？

①1639年　②1643年　③1651年　④1657年

2　甥の４代将軍家綱を補佐した会津藩主とは？

①徳川忠長　②松平信綱　③保科正之　④松平容保

3　岡山藩主池田光政が設立した，わが国初の郷学とは？

①閑谷学校　②花畠教場　③明倫館　④弘道館

4　５代将軍綱吉を擁立し，大老に就任した人物とは？

①酒井忠清　②堀田正俊　③柳沢吉保　④間部詮房

5　元禄金銀の改鋳を行った荻原重秀の，1695年当時の役職とは？

①勝手掛老中　②側用人　③勘定吟味役　④佐渡奉行

6　1715年の海舶互市新例〔長崎新令・正徳新令〕で１年間に認められたオランダ船の隻数とは？

①２隻　②30隻　③70隻　④80隻

7　次のうち，井原西鶴の浮世草子ではないものを一つ選べ。

①『好色一代男』　②『武道伝来記』　③『日本永代蔵』　④『武家事紀』

8　６代将軍家宣・７代将軍家継の侍講として「正徳の政治」を展開した新井白石の著書としてふさわしくないものを一つ選べ。

①『読史余論』　②『藩翰譜』　③『采覧異言』　④『政談』

9　独自に「聖学」を唱え，『聖教要録』を著して朱子学を批判，幕府により播磨国赤穂藩に流された古学者とは？

①山鹿素行　②伊藤仁斎　③伊藤東涯　④荻生徂徠

10　５代将軍綱吉により「歌学方」に任命された人物とは？

①林鳳岡〔信篤〕　②安井算哲〔渋川春海〕　③北村季吟　④契沖

11　日本三名園の一つである，岡山藩池田氏の庭園とは？

①兼六園　②後楽園　③偕楽園　④六義園

12　京焼の創始者とされる芸術家とは？

①本阿弥光悦　②酒井田柿右衛門　③野々村仁清　④尾形乾山

解答

1	③	2	③	3	①	4	②	5	③
6	①	7	④	8	④	9	①	10	③
11	②	12	③						